

【授業改善推進プラン 2年 国語】

児童の状況	【話す・聞く】 ○聞いたり話したりする力に個人差がある。特に「聞く」については、「聞こえている」とどまる児童や聞いていても理解ができていない児童がいる。 【読む】 ○文章を読む力が不十分である、問題文を正確に読めない児童がいる。 ○平仮名や片仮名、漢字の習熟、また、拗音・促音、適切な助詞「は・を・へ」の活用などの理解が不十分な児童がいる。 【書く】 ○何を書いたらよいか、どう書いたらよいか分からないため、教師が聞き取ったことを文章に起こし、それを清書することにとどまる児童がいる。 ○段落や場面を考えながら文章を構成させて書くことが苦手な児童がいる。 ○新出漢字への学習意欲はあるが、正しく習得できていない児童がいる。
指導についての課題	【話す】 ○話したり聞いたりする力について、授業を基本とし、学んだことを日常生活でも意識できるようにする必要がある。 【読む】 ○読み解く力の育成を図り、文章を正しく理解できるようにする必要がある。 ○1年生までの学習（平仮名・片仮名・漢字・拗音促音・はをへ等）の習熟度を適切に把握し、不十分な児童については練習の機会を設けたり支援したりする必要がある。 【書く】 ○字形を正しく書く機会を細かく設けて、スモールステップで習得をさせる。 ○原稿用紙を使い、段落を意識して書く活動を確保する必要がある。
授業改善にむけての具体的方策	【話す】 ○話したり聞いたりする時のポイントをキーワード化し、日常生活でもキーワードを使って声掛けや掲示をし、意識できるようにする。 ○グループ活動を様々な教科において設定し、友達の意見を聞いてまとめたり、自分の意見を相手意識をもって伝えたりする機会を設定する。 【読む】 ○平仮名や片仮名、漢字の習熟、また、拗音・促音、適切な助詞「は・を・へ」の活用などの理解が不十分な児童に対しては、読む指導だけではなく書く活動を通して、理解を深める機会を設定する。 【書く】 ○出来事や気持ちを作文にする活動を設定する。 （書く前に段階により、言わせる活動をいれる） ○漢字はテスト前の事前練習や再テストを行い、細かく習熟度を教師、児童ともに確認しながら学習や振り返りを行う。
読み解く力の育成	○文章中の主語・述語をおさえる。 ○言葉の意味を確認する時間を設ける。 ○「その」「あの」などが何を指しているのかを確認する。

【授業改善推進プラン 2年 算数】

児童の状況	○一生懸命に学習に取り組む子が多い。 ○たし算・ひき算の計算では繰り上がり、繰り下がりのある・なしに限らず、時間が掛かったり、指を使って計算をしたりする児童が複数名いる。 ○自分の考えをノートに書いたり説明したりする力に個人差がある。 ○長さ、水のかさ、時刻と時間の学習では単位換算が不十分な児童が多い。 ○問題の意味が理解できず、立式が難しかったり、答えに単位を付け忘れたりする児童が複数名いる。
指導についての課題	○既習の学習に対して習熟度に差があるので、実態に合わせて習熟度別学習を進めていく必要がある。 ○自分の考えを説明する活動を設定し、力を伸ばしていく必要がある。 ○実物を用いて測る活動に取り組ませるなど、実感を伴った学習を更に取り入れる必要がある。 ○問題の意味を理解するための手だてを検討する必要がある。
授業改善にむけての具体的方策	○各時間に前時の振り返りを取り入れ、既習事項の定着を図る。 ○解き方が分からない児童に問題を解く手順を考えさせるなど、個に合わせた具体的な助言を行う。 ○考えを説明する際に、必要に応じて説明の型を示す。また、児童が発表した説明に対し、良い点を全体へ伝え、共有する。 ○I C T機器を活用し、考え方の共有を図り、学び合いを深める。 ○実物を用いて測る活動に取り組む環境を整える。 ○問題文の内容を的確に理解させるために、実物やおはじきなどで提示したり、I C T機器を活用したりするなどの工夫を、より行っていく。
読み解く力の育成	○文章題の内容を確実に理解させるために、「わかっていること」「聞かれていること」を全体で確認する。「合わせて」「ちがいは」などのキーワードについて確認をする。また、必要に応じて図や絵・おはじきなどを活用し、文章題理解の一助とする。 ○解き方を発表する際、児童の書いたノートを書画カメラなどで写す。そして、どのように解決したのか考える時間を設け、図や表・式などから解き方を読み取る力を伸ばす。 ○定義となる語彙が新たに登場した際、ノートに記載させ全員で読ませたり、当てはまる具体例を考えさせたりすることにより、新しい語彙を確実に定着させる。

【授業改善推進プラン 2年 音楽】

児童の状況	○主体的に授業に参加する児童が多い。 ○歌唱やリズム遊びでは、技能に個人差が見られるが、意欲的に取り組んでいる。 ○鍵盤ハーモニカを正しい指づかいで演奏できる児童が多い。 ○曲や周りの声を聴かず、自分のペースで歌ったり演奏したりしてしまい、音がずれてしまう児童がいる。 ○音程を上手くとれない児童がいる。
指導についての課題	○歌唱やリズム、鍵盤ハーモニカの演奏など、個々の技能に差があるため、個に応じて指導する必要がある。 ○集団での歌唱や演奏の場合、音を聞き合う指導をする必要がある。
授業改善にむけての具体的方策	○正しい指づかいで演奏できない児童のため、指を動かすトレーニングをする機会を設定する。 ○演奏練習の時間を設定し、個に応じて支援をする。 ○指使いや正しい姿勢を電子黒板やタブレットに映したり、児童自身が自分の姿を録画したりすることで、交流や振り返りを充実させる。 ○音を聴きながら歌ったり演奏したりする指導や音量調整をする必要がある。

【授業改善推進プラン 2年 図工】

児童の状況	○平面・立体問わず、意欲をもって活動をしている児童が多い。 ○絵の具やクレパスなどの用具を楽しみながら使い、自分なりに表し方の工夫を見つける児童もいる。 ○活動に気持ちを向けるのが難しい児童、集中が続きにくい児童がいるが、周りに影響を与えることは少ない。
指導についての課題	○気力に乏しい、意欲の持続が難しい児童がいるので、学級担任と情報交換し、家庭状況、個人の特性を把握しておく必要がある。 ○ねらいを理解させ、ねらいから外れないように指導はしながらも、児童にとって自主的な活動になっているか、その活動を楽しんでいるか、常に確認をして進める。

授業改善に むけての 具体的方策	○狙いを明確化し、繰り返し伝え、それを児童が理解できたのちの自由な表現を保障する。 ○題材のねらいからはずれない範囲での、一人一人のアイディアに応える余裕のある指導、フレキシブルな判断を心掛ける。またそのための素材・用具を幅広く準備しておく。 ○図工が苦手、関心が低い児童がいることを意識した題材開発。例えば、動く・光る・音が鳴るなど完成した後に楽しめる要素や、家に持ち帰って飾れる、家族の話題にあがる題材など。 ○完成作品を多くの人に見てもらい、児童が誇らしいような充実した気持ちになれるように、魅力的な校内展示の仕方に努める。
------------------------	---

【授業改善推進プラン 2年 生活】

児童の状況	○生き物や植物に関心のある児童が多い。 ○観察カードに絵や文章を記入することができる。 ○人との関わりについて、うまくいかない児童が多い。 ○私たちが住む町について、意欲的に調べている。 ○自然と慣れ親しむ経験や環境が少ない。 ○協働して取り組む活動が苦手な児童が多い。 ○学習した内容を身近な生活に生かそうとする考えに至らない。
指導について の課題	○気付きや思いの質を高める活動設定や教師の発問が必要である。 ○異学年や外部人材との交流を広げる必要がある。 ○児童の身近な生活に焦点を当て、生活の向上に繋げる視点づくりが必要である。
授業改善に むけての 具体的方策	○児童の気付きや思いを高める活動設定や教師の発問について、学年で検討し、実行する。 ○異学年や外部人材との交流を広げ、相手意識をもてるようにする。また、分かりやすく伝える・説明するなどをめあてに掲げ、良いところを積極的に褒めて価値付けする。 ○地域や保護者と連携し、情報収集を行う。

【授業改善推進プラン 2年 体育】

児童の状況	○体を動かすことが好きな児童が多い。 ○整列や準備運動など基本的な集団行動のルールが身に付いてきている。 ○どうしたらもっと上手になれるか、みんなで楽しく運動ができるかを考え話し合い、工夫したり教え合ったりする力については個人差がある。 ○体力テストの結果から、総合的な体力には個人差があり、体力があまりない児童も多い。 ○道具やルールを用いた遊びを知らない、経験がない児童がおり、苦手だと思いと、やりたがらない傾向がある。
指導についての課題	○多様な動きを経験することができるよう、学習内容や場の設定を工夫する必要がある。 ○集団で楽しく活動する意識を高める必要がある。 ○夏季は暑さのため、校庭やプールでの指導ができない日が多い。そのため、室内でもできる運動を取り入れていく必要がある。
授業改善にむけての具体的方策	○学年で検討し、学習内容や場の設定について工夫する。多様な動きを経験できるようにする。 ○ペアやグループなど児童同士で工夫したり教え合ったりする活動を増やし、集団で楽しく活動する意識や方法を身に付けられるようにする。 ○室内で取り組める運動のバリエーションを増やす。 ○タブレットを活用し、自分の動きを確認することで、技能を高めていく。 ○ワークシートを用いて、自己の成長を振り返り、達成感を味わうことで体を動かす良さを実感できるようにする。

【授業改善推進プラン 2年 特別の教科 道徳】

児童の状況	○意欲的に学習に取り組み、進んで発言をすることができる児童が多い。○学習から得られる大切なことについて理解する児童が多い。 ○自分の経験や生活と結びつけて考えたり、言葉にして表現したりする力が乏しい。
指導についての課題	○学んだことや感じたことなどを言葉にする、交流や振り返りの場面を充実させる必要がある。 ○学習内容を、児童自身の態度や生活と具体的に照らし合わせて振り返りを行う必要がある。 ○自分のこととして考えたり、登場人物の気持ちをより深く考えたりできるようにする質問の工夫をする。 ○言語による発表にこだわらず、児童が自分の思いや考えを絵やしぐさ色、短い言葉、選択肢を用いて表現できるような活動を取り入れる。 ○登場人物の気持ちを、多面的・多角的に考えることが難しい。
授業改善にむけての具体的方策	○交流や振り返りの場面で、話し合いだけでなく、教具や動作化などを多様に用いて、児童の言葉を引き出せるようにする。 ○5～10分、道徳ノートやICTに記入する振り返りの時間を確保する。 ○振り返りを行う時に、「今まで・これから」の自分という視点を与えて、書かせる。 ○学習内容に関連する日常生活の場面を具体的に設定し、児童自身の言動について考える場面を設定する。 ○導入で生活経験を想起させ、終末で自己の変容を実感させる。 ○ペアやグループでの意見交流を取り入れ、自分の考えを広げたり深めたりする場を設ける。
読み解く力の育成	○教材に書かれた文章や資料から、その場面の状況を確認する。 ○自分と他者の考えを比べて、同じか違うかを考えさせる。 ○中心場面で、登場人物の気持ちや立場を多面的・多角的に考える発問を設定する。